



広げよう「友好と奉仕」の輪

会長 西井 勝明

人類に奉仕するロータリー

本日は 第3024回 例会
プログラム
中空知定住自立圏
No.2836 3月30日(木)

次週以降の予定
4月6日(木)火災予防行政の現況
4月13日(木)新理事会例会
4月20日(木)ゲスト卓話(西高)

第3023回 例会報告

2017年 3月23日(木)

副会長挨拶



季節の変わり目ではありますが、会員皆様体調にはくれぐれも気をつけてお過ごしください。
卒業・入学のシーズンとなりました。この春めでたくお祝いを迎えられた方は、是非ともニコニコBOXにご協力ください。

ガバナー月信3月号を見てみるとガバナーノミニに関する記述があり、千歳RCは次年度ガバナー補佐を承け、ガバナー補佐の任の後にガバナーをされるということです。

幹事報告



- ①. 赤平RCより4月の例会プログラムが届いています。
- ②. ガバナー月信3月号が届いています。購読希望者のロッカーに入れてます。
- ③. 第22回「風がみつけた街」コンサートのパンフレット並びにチケット購入の依頼が届いています。チケットは1枚1,000円ですので、ご希望の方はよろしくお願ひいたします。

同好会報告



麻雀同好会 小山 進 会長より
本日18:30より麻雀同好会大会を開催いたします。参加される方は18:00までにお集まりください。

先週のプログラム

【青少年奉仕委員会担当例会】

ーゲスト卓話ー



青少年奉仕委員会 村田 雅彦 委員長
本日の担当例会は、滝川市保健福祉部子育て応援課子ども発達支援センター所長の村井新知氏をお迎えしまして、子ども発達支援センターの活動についてお話をいただきます。今回の例会主旨として、私自身弁護士という仕事の中で発達障害を持っている方と関わることがあり、「発達障害」の傾向として、今の社会の中では生きづらい思いをされている方が多く

いらっしゃいます。まだまだ理解が浸透していない現状から更に一歩理解を深めるべく、卓話をお願いするに至った次第です。

村井先生は、札幌医科大学を卒業の後、町立南幌病院、北海道立心身障害者総合相談所を歴任された後に滝川市役所に入られ、中央在宅支援センター、子ども療育センターを経て、現在子ども発達支援センターにお勤めになられています。

「滝川市こども発達支援センターの活動について」



滝川市こども発達支援センター所長 村井 新知 様

本日は、「子ども発達支援センターの活動内容について」そして「発達障害について」とお話をさせていただきたいと思います。

①子ども発達支援センターについてですが、道内に約90箇所が設置されていて、砂川、美唄、深川にも同施設があり、広域でどここの施設にも通えるという仕組みになっています。これは道内独自のシステムで、平成元年から展開されています。

②センターの活動は、児童福祉法に定められた事業と道が実施している市町村子ども発達支援センター事業があります。最近の傾向としては、障がい相談支援のニーズが増しており、この春からスタッフを1名増員することになります。滝川市の特徴として、理学療法士と言語聴覚士という医療専門職を配置していることが他の施設にない点と言えます。対象の児童は、雨竜町と滝川市に住所のある児童で、0歳から18歳までの障害を持った方の他に、言葉の発達遅れ、落ち着きがないお子さん等など障がい未満のケースも対応しています。センターの業務内容は「相談」「療育」「連携」の3点が挙げられます。

○相談は、保護者と共に来所していただくものと、保育所幼稚園に伺う巡回相談も行っています。また、最近は電話やメールでの相談も増えており、相談形態が変わっていたり、その相談者が道外在住者だったり対応に苦慮している面もあります。

○療育に関して、保護者と一緒に通所が原則。預かりではなく、保護者も学んで家庭での対応に活かすことを目指しています。季節の行事に加え、「そばちキッズキャンプ」との連携事業も行っています。

○連携について、多岐に亘る障害に対応するため、より効果的な支援の実施のため連携を行っていますし、今後も様々な機関との連携が必要になると考えています。

③センターの利用状況ですが、全児童数は明らかに減少しているのですが、通ってきている子どもの数は増加の一途であることが見ていただけだと思います。これは、急に支援が必要な子どもが増えたということではなく、法整備も含めて「発達支

援」という言葉への認知が広がったことが大きな要因と考えられます。障がい別内訳では、「発達の遅れ」が最も多く、診断のついていない子どもがほとんどで、早い時期から対応し、中には普通の生活に適応していくそんなケースも含まれているということです。④センターとして心がけている点は、障がいの支援をしている訳ではなく、子育て支援の視点を考えて事業を進めることです。子どもの指導だけでなく、保護者の子育て支援(どの様に育てていくか)を支え、寄り添い、応援することを考えています。

「発達障害について」

平成17年4月に「発達障害支援法」が施行され、初めて明文化された。自閉症・アスペルガー症候群・広汎性発達障害・学習障害・多動性障害などが、「脳機能の障がい」と認定されたことにより、しつけ、子育て等の親の責任により発生するものではないことが明確となりました。

ビル・ゲイツ氏やトムクルーズ氏が自分の障がいを公表することで更に「発達障害」という認識が進んだといえます。その特徴は、基本的にコミュニケーションの障害にあり、言語発達に遅れがある場合は自閉症、ない場合はアスペルガーと分類されます。いずれにしても、対人関係の中で問題が発生する場合が多く、「空気が読めない」など突拍子もないことを発言してしまうことや、相手の表情を理解することが難しいために発生する問題が多々あります。周囲が「障害」であることの認知が乏しい場合には、「ダメな人」とレッテルを貼られるケースが多く、学校の中でこれが発生すると先生や周囲からの指摘や注意が重なり、更には自分自身が「ボクはダメなんだ」と思いこみ、結果不登校になるというケースにもつながります。この「発達障害」に関しては、「病気」ではありませんから、当然、「治る」ものでもないということです。周囲の対応や本人の行動を修正していくことで「生きにくさ」を軽減していく、という対応が必要になります。

「一般の人」と「自閉症」の人との明確な境目はありません。その人が障害に認定されるポイントは「生活のしづらさ」によります。周りの認識や理解によって、環境が改善され、生活のしづらさがない場合は、それは最早障害ではありません。そのためにも、センター等で幼少期から指導や支援があれば二次的な問題(不登校)の発生を回避することが可能になります。更に、最近は大人数になってから発達障害に気付くケースも多くなってきています。何故か相手を怒らせてしまう、大切な約束を何度も忘れてしまう、片付けが出来ない、等の「生活のしづらさ」に直面してしまうケースが大人社会の中に潜在していると思います。ちょっとした配慮を行い、結果具体的な指摘や対応により「生きづらさ」を回避することが可能になると思われます。中には、心療内科を受診し「アスペルガー症候群」と診断されたことによって、逆に安心が生まれることもあります。それによって、自分の生き立ちの中でいつも怒られていた様々なことについて合点がいくのです。

最後になりましたが、皆さんの周りで、子どもの育ちに関して悩んでいる方がいるようであれば、早い段階で保健センターや子ども発達支援センターへ相談することをお勧めください。



神部 洋史 副会長から

私の孫に軽い発達障害がありまして、市町村によって対応に差があるようです。この様な方が理学療法士としていらしてくださる滝川市は恵まれていると思います。今日は貴重なお話、ありがとうございました。

滝川RC麻雀大会 成績結果

優勝：西田 浩二 会員
 準優勝：横山 和幸 会員
 第3位：石黒 安雅 会員
 第4位：近藤 正孝 会員
 第5位：深澤 和範 会員
 B・B賞：川口 義弘 会員
 B・M賞：山岸 穰 会員
 ダービー結果 3-6でした



神部 洋史 会員

家族に嬉しい事がありました。

坂本 和繁 会員

長女が藤女子大学に進学することになりました。今年大学二年となる次男と合わせ、四月から仕送り二人分となりロータリーの会費払えるか心配です。

柳 清二 会員

結婚記念日のお祝いを頂き、有難うございます。

入井 浩樹 会員

3月21日に次年度新委員長、オリエンテーションに参加させて頂き勉強になりました。

村田 雅彦 会員

担当例会を終え、村井所長有難うございました。今年度の担当例会をすべて無事行う事ができました。皆様有難うございました。

会長／西井 勝明
 幹事／坂本 和繁
 編集／クラブ会報委員会

電子メール info@rotary.gr.jp
 ホームページ http://www.rotary.gr.jp/

例会日●毎週木曜日 PM0:30
 例会場●ホテルスエヒロ
 事務局●ホテルスエヒロ 7F

〒073-0032 滝川市明神町2丁目2-16
 TEL(0125)22-3344
 FAX(0125)24-2755



クラブ会報は再生紙を使用しています。